

話し合ったテーマ 基礎自治体ごとに話し合いたいテーマを事前に設定しました。

## SDGs パートナーと市の協働による SDGs の普及促進

自治体名

前橋市

### 課題の構造図

テーマについて詳しい方や対象者へのヒアリング、自分自身の経験などから、チームのメンバーで課題を引き起こしている要因同士の複雑なつながりを紐解き、整理した図です。



### フォーカスした問い

チームで話し合い、課題の構造図の中のどこにポイントを絞るといいのかを定め、誰の・どんな行動を・どう後押しするのか？を、「問い」のかたちにまとめました。

1

パートナーが何をしたらよいか分からない

SDGs につながる取り組みを促進させたい行政が、SDGs パートナー同士で交流する場づくりをすることで SDGs パートナーと主体的に SDGs につながる取り組みをするために、何が可能か？

2

普段の活動が SDGs に繋がっていると気づいていない

SDGs に取り組む意欲がある事業者や個人が、SDGs につながる取り組みを正しく理解することで、一歩踏み出すために、何が可能か？

3

SDGs を自分ごととして捉えられない

これからの未来をつくることも、なぜ SDGs が必要か学び、正しく理解することで、SDGs に高い関心を持ち、継続的に行動するために、何が可能か？

### 未来の種

問いに対して、どんなアクションを起こすとより良い未来につながるのか、チームで話し合った意見の中から、特に実現してみたい「未来の種」となるようなアイデアの一覧です。

SDGs 社会貢献アワード	1年ごとに、SDGs の目標達成状況の確認、表彰を行う。SDGs パートナー企業の担当者同士の交流を強化し、つながりづくりを行う。	赤城山から身近に SDGs を学ぶ	学校の課題活動に合わせて、赤城山を美しく残すために身近なアクションを共有し、行動の輪を広げる機会を作る。子供向けに 17 のゴールにもとづくウォークラリーを作ったり、清掃や保全活動を行う。
SDGs を身近に感じよう	市とパートナー企業で、SDGs に繋がる項目を見える化するプラットフォームを立ち上げる。特設サイトでは、17 の目標行動のヒントや、チェックシートなどが確認でき、無料で誰でも利用できる。		



話し合ったテーマ

基礎自治体ごとに話し合いたいテーマを事前に設定しました。

外国籍の住民と地域住民の交流機会の創出

自治体名

玉村町

課題の構造図

テーマについて詳しい方や対象者へのヒアリング、自分自身の経験などから、チームのメンバーで課題を引き起こしている要因同士の複雑なつながりを紐解き、整理した図です。



フォーカスした問い

チームで話し合い、課題の構造図の中のどこにポイントを絞るといいのかを定め、誰の・どんな行動を・どう後押しするのか？を、「問い」のかたちにまとめました。

1 外国籍の方への偏見

外国籍の児童生徒が在籍する小学校に通う親子が主体的に話し合いをする場を設けることで国関係なくお互いを知るために、何が可能か？

2 外国籍の方の困りごとが分からない

悩みや困りごとを抱えている外国籍の方が頼られる相談先にいつでも簡単にアクセスできるような環境・システムを構築することで相談事の解決と相談事例の蓄積により理解を高めるために、何が可能か？

3 外国籍の方に必要な情報が伝わっていない

情報発信方法が分からない自治体が外国籍の方の立場に立った発信方法、内容を理解し情報を届けることで外国籍の方が町のコミュニティに入りやすくなるために、何が可能か？

未来の種

問いに対して、どんなアクションを起こすとより良い未来につながるのか、チームで話し合った意見の中から、特に実現してみたい「未来の種」となるようなアイデアの一覧です。

		<p>玉村町 多文化共生祭</p>	<p>11月頃に玉村産業祭と併催する。玉村町役場一帯および関連施設で多文化共生祭を開催する。町内、県内の外国籍コミュニティ各国が各国の特徴をもった食、文化、活動を紹介するブースを出展し、地域住民相互の交流創出、相互理解を深める。</p>
<p>みんなにやさしい情報発信！ with やさしい日本語</p>	<p>やさしい日本語を理解した上で、オンライン上でSNSを複数連携させ、役場職員や市民団体により、やさしい日本語でのイベント情報を発信する。</p>	<p>学校で 親子参加系 交流会</p>	<p>参観日の学校で、子どもたちと親が参加できるディベートや防災訓練の交流会を開催する。それぞれの出身国を紹介しあったり、授業を行ったり伝統的な料理を振る舞いあったりなど、外国籍住民と地域住民の親子が顔を合わせる機会を持つ。</p>
<p>役場を多文化共生のシンボルへ</p>	<p>役場や八幡様で人権担当と多文化共生推進担当がアンケートを実施する。ニーズを把握し、それに沿った研修を行う。ピクトグラムや絵など視覚情報を活用し、全住民の困りごとに対して、頼りになる存在となることを目指す。</p>	<p>心を込めて お手紙を書こう</p>	<p>小学校に通う子供たちが、絵手紙をクラスメイトに送り合い、家族と一緒に手紙の内容を共有し、クラスメートの親が、手紙の送り主に返事を書く。</p>

話し合ったテーマ

基礎自治体ごとに話し合いたいテーマを事前に設定しました。

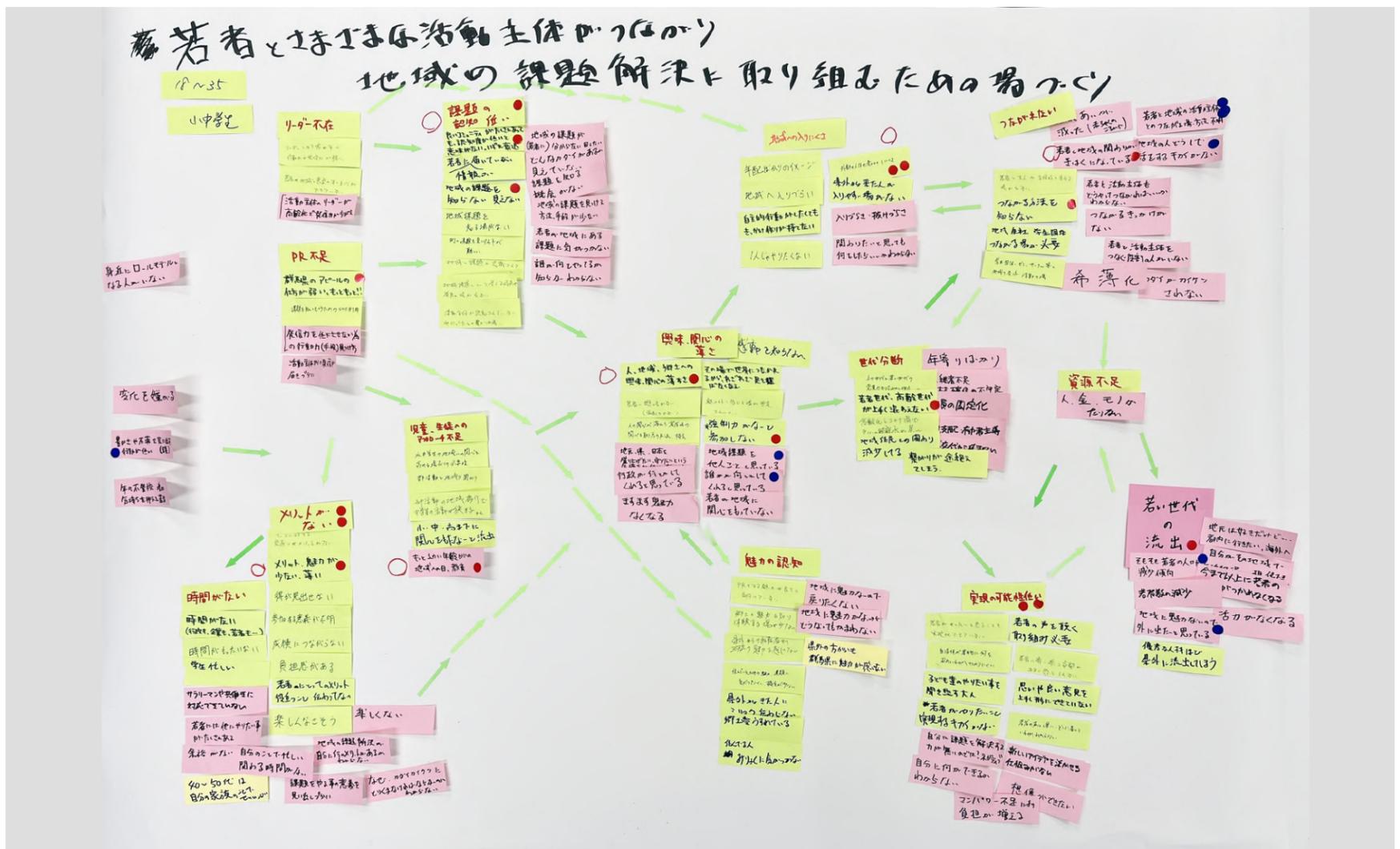
若者とさまざまな活動主体がつながり、地域の課題解決に取り組むための場づくり

自治体名

県

課題の構造図

テーマについて詳しい方や対象者へのヒアリング、自分自身の経験などから、チームのメンバーで課題を引き起こしている要因同士の複雑なつながりを紐解き、整理した図です。



フォーカスした問い

チームで話し合い、課題の構造図の中のどこにポイントを絞るといいのかを定め、誰の・どんな行動を・どう後押しするのか？を、「問い」のかたちにまとめました。

1 地域の魅力を知らない

地域の魅力を知らない子どもから若者が幅広い世代と共に地域づくり活動に主体的に取り組むことで、地域の人と郷土を愛し、何かしたくなるために、何が可能か？

2 県外の人が入りにくい

群馬の外から群馬に住む・住みたい若者が魅力ある自然を活かした体験を通じて、群馬の人や土地について知り、好きになるために、何が可能か？

3 地域課題に対する関心が薄い

地域に課題があることすら知らない人たちが、はじめて地域の課題を認識することによって、地域に関心を持つために、何が可能か？

未来の種

問いに対して、どんなアクションを起こすとより良い未来につながるのか、チームで話し合った意見の中から、特に実現してみたい「未来の種」となるようなアイデアの一覧です。

<p>ガチャ旅</p>	<p>地域の困りごとを掲載したホームページ等のURLのQRコードを入れたガチャガチャを、観光地や駅などに設置。旅行者は旅先でガチャガチャを回してQRコードから困りごとにアクセス。課題解決のお手伝いをしたら、滞在中に使えるクーポン券などのサービスを受けられる仕組みを作る。地域の課題を地域外と共有し、課題解決を目指す。</p>	<p>まちの みらいがっこう</p> <p>小学生・中学生を対象に、小・中学校の体育館で、地域を知り、地域の未来を語る合宿を行う。運営は高校生や大学生が行い、地域の大人がサポートをする。グループで町に出て、食事や買い物をし、気づきをマップに落とし込む。地元食材で料理をするなどの活動をした後、地域の人と一緒に気づきを共有し、まちの未来を語る。</p>
<p>つながるサービス「やるべ」</p>	<p>ボランティアやつながりを生み出す場や発信する場の提供を、行政・民間団体・企業が行い、したい事、やりたい事ができた時、必要としている人と簡単につながるサービスを構築する。</p>	